

防止隊だより 令和7年3月号

特集1：第31回 MMB 岡崎！『道根往還』
特集2：環境教育「岡崎の森林の今を知ろう」
お誘い：防止隊だより10月号の掲載内容募集

特集1：第31回 MMB 岡崎！「古の道『道根往還』を歩いてみよう」を開催

古の道『道根往還』を歩いてみよう 路線バスで訪ねる、岡崎の歴史と自然

人馬が往来した古の尾根道を歩く

道根往還は1000年前からある、尾根（ドウネ）を通る道です。明治時代までは炭やコメ、日用品を運搬するため、1日に100頭の馬が往来したそうです。今回のMMB！（みんな、もっとバスに乗ろう！）は、この古道の一部を含む約7kmを歩いていきます。

当日の出席は9名。足場の悪い箇所があるためトレッキングシューズや軍手、トレッキングポールなどを準備して、岩中線の名鉄バスに乗車します。

岩中バス停で下車後、岩谷観音奥の院を目指して山道を登っていきます。途中でキセキレイを観察したりウグイスの声を聞いたり、ツブラジイの実を探したりの道ゆきです。

道中、岩谷観音堂の屏風岩を見て「どうしたらこんな風に岩が重なるのか？」、参加者同士が推理しあう場面もありました。聖ヶ峰にはブランコがあり、ハイジの気分で漕ぐこともできます。三角点がある峠は、軽く汗をかいた体には心地のよい場所でした。



十分に景色を楽しんだ後の下山道は、石や木の根が地表に出ていて、一歩一歩確認しながら進みます。下草の生えていない荒れた地肌を見て、山の現状を知る機会にもなりました。



道根往還は二人並んで歩くのが精一杯で、当時の面影はありません。ですが途中道幅の広い所で休憩をしていると、馬ならぬオフロードバイクの一行が通り過ぎていきました。ここは今でも「道」であることを再確認しました。

最後に正立寺と岡崎城から移築した城門を見て、上鍛埜バス停から東岡崎へ向かうバスに乗りました。バス料金の支払い方を知らない方もいました。これを機会にバスに乗る習慣がついてくれればと思います。バス代は東岡崎から岩中が540円、上鍛埜から東岡崎が810円です。「もう少し安くないと、さらに乗る人が減ってしまいそう」「マイカーの利用よりは安いし、二酸化炭素の排出量も減る」といった意見がありました。また今回のように公共交通を使って、生活が潤う場所を開拓するのもMMBの役割だと思います。

座学と現場見学で知る、岡崎の森林の今

令和 7 年 2 月 2 日(日)、額田センター・こもれび館で 13 名の参加者を迎えて「岡崎の森林の今を知ろう」を初めて開催しました。

このイベントは座学と現場見学を通じて、地元岡崎の森林の今を知れる環境教育です。長年防止隊が支援している、健康な山づくりと地域の活性化に取り組む「額田木の駅プロジェクト」との協力の元で実現できました。

額田の森林は二酸化炭素の吸収源であることはもちろん、岡崎市の水道水の約半分を賄う水源としても重要であり、私たちの生活になくてはならないものです。だからこそ地元の森林を知り、健康な状態に保つための取り組みは欠かせません。「額田木の駅プロジェクト」代表の唐澤晋平さんを講師に、何が起きているのか、何ができるのかを学びました。

座学：木を伐って使うことでわかる、地元の山の価値

座学で最も印象に残ったのは「木を伐って使う」ことが、今の山の健康には不可欠だということです。

なぜなら戦後、急激かつ広範囲に植えたスギやヒノキが生長しているからです。歴史上かつてないほどに木材資源が豊富になっている一方で、生長不良の木が増えて、搬出コストが引き合わない林地も増えています。木の駅プロジェクトでは、間伐した時に出る建築用材にはならない「C 材」を、山主さんが伐り出します。そして製紙やチップなどに加工するために C 材を買い取る価格に補助を加えて、地元の商店で利用できる地域通貨を発行。山と地域の活性化に寄与しています。今年度で 10 年目を迎え、なんと累計で 10000 トンの木材を出荷し、6000 万円分もの地域通貨が流通しました。



現在の岡崎の山の課題は、C 材を伐り出しやすい林地が減り、木の駅に携わる人も高齢化で減少していること。建築用木材として経済的価値の高い A 材という資源の、市全体での利用促進が必要なことです。

このことから岡崎の山の健康には、今ある木を保護するよりも「まちと山をつないで、フェアに木を使える」、持続的な仕組みが求められることがわかります。

さらにいえば山には所有者がおり、ほとんどが個人の所有です。ところが経済的価値が下がる中で放置され、今では誰がどこにどれだけの林地を保有しているかもわからなくなってきました。そこで森林環境税などを利用しながら、森林の状態を明らかにし、経済的・生態的に必要な作業も進めています。

会場からは活発に質問もあり、生活の中ですっかり見えなくなっていた「山の価値」や「森林と人との関わり合い」が考えられるようになってきました。

現場見学 1：木の駅に伐り出す C 材と林地に残し育てる A 材

座学後は、みんなでバスに乗って額田の山の中へ。まずは木の駅の見学に向かいました。

写真にある木は、なんとすべてが C 材。太いようでも曲がっているため、木の駅プロジェクトがなければコストが見合わないようです。今手間暇をかけることで、山には健康な A 材となる木が育ち、林業にも生態系にもよい影響が生まれます。



逆に今の経済を成り立たせるためだけに A 材のみを選んで伐り出すのでは、育ちの悪い木々が残るだけで、健康な山にはなりません。戦後の大規模な植林の結果を、どうやって未来へつないでいくのかが私たちに問われていると感じました。

現場見学 2：山中を歩くことで見えてくる関わりのありよう

その後は実際に木を伐った後や、もはや経済的に手遅れになってしまった林を歩いて見学しました。木があっても、その下には限られた草木しか生えていません。日光が入らなかったりシカが食べてしまったりして、なかなか育たないようです。多様な生きものがある山は、生物の関わりの多様さを高め、防災や水源としての機能も期待できます。ただ見た目に木が生えていればよいのではないのです。山の中まで歩くことで、草木や動物や人との関わりのありようについて、さまざまに見えてくるものがありました。

林地の写真は、実際に唐澤さんが伐った場所です。山肌に残る木材は、コストはもちろん急斜面で労働災害のリスクも高いために運ばれなかったものです。額田の山は、将来的には伐るだけでなく木を植えるフェーズもあります。そのため今はスギやヒノキがたくさんあっても、持続的に林業が営める場所は限られていることがわかります。参加者のみなさんからは、初めて知る現実が多く「わかりやすく良かった」という感想を頂けました。



おしらせ①：岡崎市地球温暖化防止隊、今後のイベント開催予定スケジュール★

イベント名	日程	内容	実施部会
CO ₂ 見える化報告会	5月10日 (土)	市内3カ所にCO ₂ 濃度測定局を設置し、継続的な測定・分析・評価・情報共有を通じて、脱炭素の地域づくり活動を進めています。そこでCO ₂ 濃度の分析やデータ活用方法について報告会を開催します。場所は竜美丘会館303号室で、時間は13:30～16:30、先着30名様の予定です。	CO ₂ 測定プロジェクト委員会

* 申込方法など詳しい情報は、市政だよりもしくは岡崎市地球温暖化防止隊事務局までご連絡を♪

おしらせ②：岡崎市地球温暖化防止隊、各種会議開催予定日

役員会：代表・副代表・部会長・会計・監事・アドバイザー

日付	時間	開催場所
3月13日(木)	19時～21時	ZOOM オンライン開催

部会・委員会

部会名・委員会名	日付	時間	開催場所
交通委員会	3月10日(月)	19時半より開催	図書館交流プラザりぶら
広報部会	3月22日(土)	13時半より開催	りぶら活動コーナー
自然委員会	3月13日(木)	19時より開催	ZOOM オンライン開催

【お誘い：防止隊だより10月号に掲載したい内容募集】

私たち防止隊は、一年を通じてさまざまな環境教育を開いています。『防止隊だより』は、その成果を隊員のみなさんと共有する月刊広報誌です。県や国、ときには世界で行われている温暖化対策をまとめたり、岡崎ならではの実践や賛助会員のみなさんの活動を紹介したりもしています。現在では岡崎市役所ウェブサイトの防止隊紹介ページに掲載し、誰でも自由に閲覧できるようになっています。

さて今回は、そんな『防止隊だより』の令和7年10月号に、掲載したい内容を募集します。みなさんの活動だったり、ちょっとした疑問やアイデアでもかまいません。特にアイデアはなくても、広報や紙面づくりに興味がある方もぜひご連絡ください。

連絡先：岡崎市地球温暖化防止隊事務局（岡崎市環境部ゼロカーボンシティ推進課内）

締切：令和7年5月30日（金）

※本ページの欄外下記にあるアドレスに、タイトルを「防止隊だより提案」としてお送りください。

※書面体裁とアイデアの個数は問いません。

※未成年の方は、あらかじめ保護者の方の同意を得てから応募してください。

- ・紙面はA4用紙3ページ分で、別月の紙面内容や作成予算とすり合わせて考えます。
- ・応募多数の場合は、広報部会が採用する内容を決めさせていただきます。紙面作成時には、ご相談のうえ、応募内容を改変して利用することがありますので承知おきください。
- ・公序良俗に反するもの、単に商品やサービスの宣伝広告となるものなどは不可とします。
- ・応募内容は無償で使用し、防止隊の活動企画等に使用する場合もあります。作成物の著作権等は防止隊に帰属します。なお、本件はやむを得ない事情により中止したり、内容変更したりする場合があります。



岡崎市地球温暖化防止隊事務局

【岡崎市環境部ゼロカーボンシティ推進課内】

TEL：0564-23-6786 FAX：0564-23-6536

Eメール ondankataisaku@city.okazaki.lg.jp



2025年2月発行